

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-35884

(P2010-35884A)

(43) 公開日 平成22年2月18日(2010.2.18)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 6 3 F 7/02 (2006.01)	A 6 3 F 7/02 3 1 1 A	2 C 0 8 8
	A 6 3 F 7/02 3 1 2 Z	

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 21 頁)

(21) 出願番号	特願2008-203554 (P2008-203554)	(71) 出願人	000161806
(22) 出願日	平成20年8月6日 (2008.8.6)		京楽産業、株式会社
			愛知県名古屋市中区錦三丁目24番4号
		(74) 代理人	100076473
			弁理士 飯田 昭夫
		(74) 代理人	100112900
			弁理士 江間 路子
		(74) 代理人	100136995
			弁理士 上田 千織
		(74) 代理人	100150935
			弁理士 村松 孝哉
		(72) 発明者	泉 邦秋
			愛知県名古屋市中区錦三丁目24番4号
			京楽産業、株式会社内
		Fターム(参考)	2C088 EB52

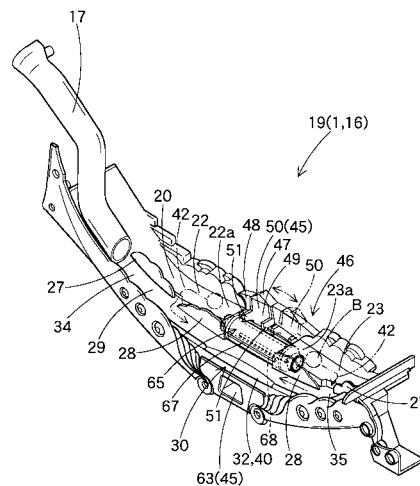
(54) 【発明の名称】 パチンコ遊技機

(57) 【要約】

【課題】下ステージを転動する遊技球がリフトによって流入口付近に移送される際の遊技の趣向性を、一層、向上可能なパチンコ遊技機を提供すること。

【解決手段】センター役物16が、遊技球Bを、ステージ部19の上ステージ20に開口させた流入口50から流入させ、流出口63から入賞口へ向けて流出可能とする入賞補助通路45と、下ステージ29側の遊技球を受け止めて上ステージ側に移送可能な受止保持部67を有するリフト65と、流入口に流入しなかった遊技球を、上ステージから下ステージに戻し可能な戻しルート42と、遊技球を排出可能な排出路40と、遊技球を入球させる入球口17と、を備える。流入口50は、流入口に流入しなかった遊技球を戻しルート42に転動可能として、左右に往復移動する。受止保持部67は、下ステージ29側で受け止めた遊技球を、流入口50の左右の往復移動領域の上ステージ20側に移送可能に、配設されている。

【選択図】 図3



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

センター役物が、

遊技球をそれぞれ転動可能な上ステージと該上ステージの下方に配置される下ステージとの少なくとも二つのステージを有するステージ部と、

遊技球を、前記上ステージに開口させた流入口から流入させ、流出口から入賞口へ向けて流出可能とする入賞補助通路と、

前記下ステージ側の遊技球を受け止めて前記上ステージ側に移送可能な受止保持部を有して、遊技球の移送動作を繰り返すリフトと、

前記流入口に流入しなかった遊技球を、前記上ステージから前記下ステージにおける前記リフトの遊技球の受止エリアまで転動させて戻し可能な戻しルートと、

前記下ステージに配置されて、前記下ステージの前縁から遊技球をセンター役物外へ排出可能な排出路と、

前記ステージ部に遊技球を入球させる入球口と、

を備えて構成されるパチンコ遊技機であって、

前記流入口が、前記リフトの受止保持部によって移送される遊技球を流入可能に、前記上ステージ側における前記リフトの後側に配設されるとともに、移送時に前記流入口に流入しなかった遊技球を前記上ステージの戻しルートのエリアに転動可能として、左右方向に沿って往復移動するように、配設され、

前記リフトの受止保持部が、左右方向の長さを前記流入口の左右方向の開口寸法より広く設定されるとともに、前記下ステージ側で受け止めた遊技球を、前記流入口の左右方向の往復移動領域の前記上ステージ側に移送可能に、配設されていることを特徴とするパチンコ遊技機。

【請求項 2】

前記入賞補助通路の内周に、前記流出口側に向かう遊技球に対して、少なくとも下方と左右両側とから接触し、前記流出口から前記入賞口に向かう遊技球の流出方向を安定させる案内部が、配設されていることを特徴とする請求項 1 に記載のパチンコ遊技機。

【請求項 3】

前記入賞補助通路が、前記遊技球を前記案内部側に案内可能に前記流入口側に連通し、前記流入口の左右方向の移動に追従可能な可撓性を有した筒状体を配設させて、構成されていることを特徴とする請求項 2 に記載のパチンコ遊技機。

【請求項 4】

前記リフトの受止保持部が、遊技球を受け止めた位置の略直上の前記上ステージ側に移送するように、構成されていることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 のいずれか 1 項に記載のパチンコ遊技機。

【請求項 5】

前記リフトが、左右方向に沿う回転軸を有して回転する構成として、

前記リフトの受止保持部が、略円柱形状として、外周面に、遊技球を吸着可能な磁石を配設させて構成されていることを特徴とする請求項 4 に記載のパチンコ遊技機。

【請求項 6】

前記磁石が、前記リフトの回転軸に沿う方向で、回転軸の軸周り方向にずらして、配設されていることを特徴とする請求項 5 に記載のパチンコ遊技機。

【請求項 7】

前記磁石が、前記リフトの回転軸に沿うように、直線状に配設されていることを特徴とする請求項 5 に記載のパチンコ遊技機。

【請求項 8】

前記下ステージ側の前記リフトにおける前記受止保持部の前側に、左右方向に沿って往復移動するように配設されて、遊技球の前記リフトの受止保持部に受止保持される部位を変更させるように、前記下ステージを転動する遊技球に接触する可動片が、配設されていることを特徴とする請求項 4 乃至請求項 7 のいずれか 1 項に記載のパチンコ遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、ステージ部を転動する遊技球を、ステージ部に開口させた流入口から流入させ、流出口から入賞口へ向けて流出可能とする入賞補助通路が、センター役物に配設されて構成されているパチンコ遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

従来のパチンコ遊技機では、センター役物において、ステージ部における上ステージの左右方向の中央付近に、入賞補助通路の流入口を配置させ、流入口の前側の下ステージの部位に、リフトを配置させているものがあった（例えば、特許文献1参照）。なお、入賞補助通路は、流出口を下ステージ下方に位置した入賞口の上方で開口させて、流入口から流入した遊技球を、入賞口へ入り易くするように流出口から流出させるものである。この入賞口は、デジパチ等での抽選を開始する始動入賞口等であり、入球によって遊技者に特典を与えることとなる。

【0003】

そして、リフトは、移送動作を回転動作とする回転タイプとして、下ステージ側の遊技球を、上ステージ側における流入口付近に移送可能に、左右方向に沿う回転軸を有して回転するとともに、外周側に、上ステージ側で遊技球を離脱可能として、下ステージ側の遊技球を受け止めて保持可能に、磁石からなる受止保持部を設けて、構成されていた。

【0004】

また、流入口の周囲には、流入口に流入しなかった遊技球をリプレイできるように、上ステージから下ステージにおけるリフトの遊技球の受止エリアまで転動させて戻し可能な戻しルートが、配設されていた。

【0005】

この戻しルートでは、上ステージの流入口の左右両側のエリアが、上ステージの左右両縁側に向けて低くなる傾斜面として形成され、また、下ステージのエリアが、左右両縁を上ステージの縁側に上面を連らせて、左右方向の中央付近を下方へ低くして構成されていた。そして、下ステージの中央付近は、リフトの前側に配置されて、受止エリアとするとともに、前縁側を、遊技球をセンター役物外の下方向へ排出可能な排出路としていた。

【0006】

さらに、センター役物の周囲の飾り枠体におけるステージ部の上方側には、入球した遊技球を下ステージ上に転動可能に案内する入球口としてのワープ通路の入口が、開口していた。

【0007】

このようなパチンコ遊技機では、下ステージを転動する遊技球がリフトの受止保持部で保持されて、入賞補助通路の流入口に入球するか、あるいは、流入口に流入せずに、戻しルートを経て下ステージに転動し、そして、再度、リフトで上ステージ側に移送されるか、あるいは、排出路から排出されるかで、遊技者にハラハラドキドキさせることができた。

【0008】

また、従来のハネモノタイプのパチンコ遊技機では、センター役物内に、左右に揺動する所謂Vゾーン（V入賞口ともいう）が配設され、センター役物内に入球した遊技球が、そのVゾーンに遊技球が入賞すれば、大当たりとなるものがあった（例えば、特許文献2、3参照）。

【特許文献1】特開2004-97800号公報

【特許文献2】特開2004-181143号公報

【特許文献3】平成18年度 標準技術集 遊技機及びその関連技術（特許庁編 第182頁参照）

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】**【0009】**

しかし、従来のような下ステージから上ステージ側の流入口に流入可能に遊技球を移送するリフトと、リプレイできる戻しルートと、を備えたパチンコ遊技機では、上ステージ側の流入口が、移動せずに、上ステージの左右方向の中央に固定されており、下ステージを転動する遊技球が、流入口の直下で、リフトに受止保持されれば、流入口に流入することが決定され、その遊技球のステージ部での遊技が略完了してしまい、一層、遊技の趣向性を向上させる点に、改善の余地があった。

【0010】

また、従来の左右に揺動するVゾーンを設けたパチンコ遊技機では、センター役物内に入球した遊技球が左右に揺動するVゾーンに入球するか否か、遊技者にハラハラドキドキさせて、遊技の趣向性を向上させているものの、遊技球がVゾーンに入賞しなければ、センター役物内のVゾーンに隣接する一般入賞口に入賞して、単に、所定数の遊技球の払い出しがあるだけで、Vゾーンを外した遊技球のステージ部での遊技が完了してしまい、上記と同様に、一層、遊技の趣向性を向上させる点に、改善の余地があった。

【0011】

本発明は、上述の課題を解決するものであり、下ステージを転動する遊技球がリフトによって流入口付近に移送される際の遊技の趣向性を、一層、向上させることができるパチンコ遊技機を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】**【0012】**

本発明に係るパチンコ遊技機は、センター役物が、
遊技球をそれぞれ転動可能な上ステージと上ステージの下方に配置される下ステージとの少なくとも二つのステージを有するステージ部と、
遊技球を、上ステージに開口させた流入口から流入させ、流出口から入賞口へ向けて流出可能とする入賞補助通路と、
下ステージ側の遊技球を受け止めて上ステージ側に移送可能な受止保持部を有して、遊技球の移送動作を繰り返すリフトと、
流入口に流入しなかった遊技球を、上ステージから下ステージにおけるリフトの遊技球の受止エリアまで転動させて戻し可能な戻しルートと、
下ステージに配置されて、下ステージの前縁から遊技球をセンター役物外へ排出可能な排出路と、
ステージ部に遊技球を入球させる入球口と、
を備えて構成されるパチンコ遊技機であって、
流入口が、リフトの受止保持部によって移送される遊技球を流入可能に、上ステージ側におけるリフトの後側に配設されるとともに、移送時に流入口に流入しなかった遊技球を上ステージの戻しルートのエリアに転動可能として、左右方向に沿って往復移動するように、配設され、
リフトの受止保持部が、左右方向の長さを流入口の左右方向の開口寸法より広く設定されるとともに、下ステージ側で受け止めた遊技球を、流入口の左右方向の往復移動領域の上ステージ側に移送可能に、配設されていることを特徴とする。

【0013】

本発明に係るパチンコ遊技機では、入球口を経てステージ部上に入球した遊技球が、下ステージ側を転動してリフトの受止保持部に受止保持されれば、上ステージ側に移送される。その際、入賞補助通路の流入口が、左右方向に沿って往復移動しており、また、リフトの受止保持部が、左右方向の長さを流入口の左右方向の開口寸法より広く設定され、かつ、下ステージ側で受け止めた遊技球を、流入口の左右方向の往復移動領域の上ステージ側に移送可能に、配設されている。そのため、リフトの受止保持部に保持された遊技球が、上ステージ側に移送させる際、確実に流入口に流入するだけでなく、流入口に流入するか否か、遊技者にハラハラドキドキさせることとなる。そして、リフトで移送された遊技

球が流入口に流入しなくとも、流入口が、移送時に流入口に流入しなかった遊技球を上ステージの戻しルートエリアに転動可能として、左右方向に沿って往復移動するように、配設されており、流入口への流入を外した遊技球は、遊技を完了させることなく、戻しルートを経て、下ステージ側に転動できる。そして、排出路からセンター役物外に排出されずに、下ステージ側のリフトの受止エリアに配置されれば、再度、流入口に流入可能に、リフトによって移送される。すなわち、リフトで移送された遊技球が左右に往復移動する流入口に流入しなくとも、流入口への流入を外した遊技球は、排出路からセンター役物外に排出される場合を除いて、流入口に流入されるまで、上記の動作がリプレイされることとなって、遊技の趣向性を向上させることができる。

【0014】

10

したがって、本発明に係るパチンコ遊技機では、左右に往復移動する流入口と、その移動する流入口の周囲に、遊技球が、流入口に流入しなくとも、その遊技球をリプレイできるように下ステージ側に転動させる戻しルートエリアと、を配設させているため、遊技球がリフトによって流入口付近に移送される際の遊技の趣向性を、一層、向上させることができる。

【0015】

そして、本発明に係るパチンコ遊技機では、入賞補助通路の内周に、流出口側に向かう遊技球に対して、少なくとも下方と左右両側とから接触し、流出口から入賞口に向かう遊技球の流出方向を安定させる案内部を、配設させることが望ましい。

【0016】

20

このような構成では、入賞補助通路の流入口に流入した遊技球を、入賞口への入賞確率を高めて、流出口から入賞口へ向けて流出させることができる。すなわち、本発明に係るパチンコ遊技機では、左右に往復移動する流入口に流入した遊技球は、流入口への流入時における流入口自体の左右方向への往復移動により、入賞補助通路を通過する際、左右方向へのブレを伴って、流出口側に転動し易い。しかし、上記のような構成では、案内部が、流出口側に向かう遊技球に対して、少なくとも下方と左右両側とから接触することにより、遊技球の左右方向へのブレを抑制できて、流出口から入賞口に向かう遊技球の流出方向を安定させることから、入賞口への入賞確率を高めて、遊技球を流出口から入賞口へ向けて流出させることができる。

【0017】

30

この場合、入賞補助通路には、遊技球を案内部に案内可能に流入口側に連通し、流入口の左右方向の移動に追従可能な可撓性を有した筒状体を配設させてもよい。このような構成では、流入口から流入した遊技球が、案内部に到達する前の筒状体を通過する際に、転動する軌跡を、大きな曲率で屈曲させることなく（入賞補助通路の内周壁に直線的に反射させることなく）、左右のブレを抑制できるように曲線状として、通過させることができ、案内部に到達する前に、極力、遊技球の流出方向を直線的に安定させることができ、案内部を経て、一層、入賞口への入賞確率を高めて、遊技球を流出口から入賞口へ向けて流出させることができる。

【0018】

40

また、リフトの受止保持部は、遊技球を受け止めた位置の略直上の上ステージ側に移送するように、構成することが望ましい。受止保持部で受け止めて上ステージ側に移送する際、左右に大きく転動せずに、受け止めた位置の略直上に遊技球を移送できれば、左右に移動する流入口の開口面に対して、直交する方向で遊技球を移送できて、流入口に遊技球を流入させ易くなるためである。

【0019】

この場合、リフトは、上面側を、下ステージ側で遊技球を受け止めて上ステージ側に上昇させ、流入口や戻しエリアに転動させるような受止保持部として、上下動を繰り返す上下往復移動タイプでもよいが、左右方向に沿う回転軸を有して回転する回転タイプとしてもよい。そして、リフトを回転タイプとする場合には、リフトの受止保持部は、略円柱形状として、外周面に、遊技球を吸着可能な磁石を配設させて構成することが望ましい。こ

50

のような構成では、他の回転タイプのリフトのような、受止保持部として、遊技球を保持可能なバケットや羽根から構成する場合に比べて、直径寸法をコンパクトに構成でき、ステージ部の前後方向の幅寸法に制限のある場合に好適となる。

【 0 0 2 0 】

そして、リフトの受止保持部を磁石によって構成する場合、磁石は、リフトの回転軸に沿う方向で、回転軸の軸周り方向にずらして、配設したり、あるいは、リフトの回転軸に沿うように、直線状に配設することができる。なお、磁石が、リフトの回転軸に沿うように、直線状に配設されている場合には、受止保持部における磁石を設けたリフトの軸方向に沿う全域の任意の位置で、遊技球を吸着して直上に移送できる。そのため、リフトの回転軸に沿う方向で回転軸の軸周り方向にずらして磁石を配設する場合に比べて、吸着された遊技球のリフトの回転軸方向に沿う位置が、吸着された遊技球毎に微妙に異なることとなり、遊技球の吸着された位置の直上に流入口が配置されるか否か、吸着された遊技球毎に、ハラハドキドキできて、遊技の趣向性を向上させることができる。

10

【 0 0 2 1 】

さらに、リフトの受止保持部が、遊技球を受け止めた位置の略直上の上ステージ側に移送するように、構成されている場合には、下ステージ側のリフトにおける受止保持部の前側に、左右方向に沿って往復移動するように配設されて、遊技球のリフトの受止保持部に受止保持される部位を変更させるように、下ステージを回転する遊技球に接触する可動片を、配設させてもよい。このような構成では、遊技球が下ステージを回転して受止保持部で受止保持される際、流入口の左右の往復移動のタイミングにより、受止保持部のどの位置で受け止められれば、流入口に流入するかが予測されていても、その遊技球の受止保持部位での実際の受止位置が、遊技球の可動片との接触により、流入口に流入し易い位置、あるいは、流入口に流入し難い位置に、変更され、実際の移送動作が開始されるまで、どの位置で、受止保持されるかが予測し難くなって、遊技の趣向性を向上させることができる。

20

【 発明を実施するための最良の形態 】

【 0 0 2 2 】

以下、本発明の一実施形態を図面に基づいて説明すると、実施形態のパチンコ遊技機（以下、単に遊技機と略す）1では、図1に示すように、遊技盤面2における外側レール3と内側レール4とで囲まれた遊技領域5を備え、遊技領域5には、その中央に、飾り枠体13に囲まれてセンター役物16が配設されている。センター役物16の後方には、液晶等で所定の図柄を表示する図柄表示装置14が配設されている。

30

【 0 0 2 3 】

遊技領域5の飾り枠体13の周囲には、図示しない釘、風車6、普通入賞口7、賞球の無い入賞口8、始動入賞口9、電動チューリップ10、大入賞口11、アウト口12等の公知の部材が配設されて、図示しないハンドルを操作し、遊技球を外側レール3と内側レール4との間から遊技領域5に打ち出せば、遊技球は、普通入賞口7、賞球の無い入賞口8、始動入賞口9、電動チューリップ10、大入賞口11、アウト口12のいずれかに入球する。そして、遊技球が、普通入賞口7や開放時の大入賞口11に入賞すれば、所定数の遊技球を獲得でき、入賞口8に入賞すれば、抽選により電動チューリップ10を所定時間若しくは所定回数開放させることとなる。また、遊技球が、始動入賞口9や開放時の電動チューリップ10に入賞すれば、抽選により、大当たり、中当たり、小当たり等の当たりや外れが決定され、当たりとなれば、大入賞口11を、その当たりに応じて開放時間、開放回数、入賞個数等を制限して、開放することとなる。これらの作動や遊技フローは、公知のものであり、遊技盤面2の背面側に配置された図示しないメイン制御基板が、入賞時のセンシングに基づき、各種の作動信号を出力し、そして、メイン制御基板からの当たりや外れ等の抽選結果に基づいて、図示しないサブ制御基板が、所定数の遊技球を払い出したり、所定のランプやスピーカ等を作動させつつ、所定の演出を図柄表示装置14に表示することとなる。

40

【 0 0 2 4 】

50

そして、飾り枠体 13 で囲まれた実施形態のセンター役物 16 は、図 2 に示すように、ステージ部 19、ワープ通路 17、入賞補助通路 45、及び、リフト 65 を配設させて構成されている。ステージ部 19 は、飾り枠体 13 の下枠 13a 側に配置されて、遊技球 B を上面側でそれぞれ転動可能な上ステージ 20 と上ステージ 20 の下方に配置される下ステージ 29 との少なくとも二つのステージ 20, 29 を有して構成されている。なお、実施形態では、図柄表示装置 14 に近い後部側に上ステージ 20 が配設され、下ステージ 29 が、前部側に配置されている。

【0025】

ワープ通路 17 は、図 1, 2 に示すように、ステージ部 19 への遊技球 B の入球口となるもので、飾り枠体 13 におけるステージ部 19 の上方側の左枠 13b 側で開口した入口 17a から入る遊技球 B を、ステージ部 19 の下ステージ 29 の左縁側に転動可能に案内するように、配設されている。

【0026】

そして、ステージ部 19 の上ステージ 20 は、図 2, 3 に示すように、入賞補助通路 45 の流入側部位 46 を配設させた中央部 21 と、中央部 21 の左右両側に配設されて、上面側で遊技球 B を転動可能な左面部 22 及び右面部 23 と、を備えて構成されている。中央部 21 に設けられる入賞補助通路 45 の流入側部位 46 は、遊技球 B を流入させる流入口 50 を、左右方向に沿って往復移動するように、構成されている。左面部 22 と右面部 23 とは、それぞれ、中央部 21 から離れるに従って低くし、さらに、最も低い底部 22b, 23b から外縁 22c, 23c 側にかけて、徐々に高くするように構成されている。また、左面部 22 と右面部 23 との中央部 21 側には、リフト 65 によって移送されても入賞補助通路 45 の流入口 50 に流入しなかった遊技球 B を、受け入れて、底部 22b, 23b 側に転動させるエリア（隣接エリア）22a, 23a が、配設されている。また、左面部 22 と右面部 23 との底部 22b, 23b は、下ステージ 29 側に遊技球 B を転動させる連通口 43 を構成する部位としている。なお、実施形態の場合、隣接エリア 22a, 23a は、リフト 65 を間にしたリフト 65 の左右両側に配置され、リフト 65 の後側には、後述する往復移動体 47 の横板部 52, 53 の戻しエリア 52a, 53a、流入口 50、及び、左右の区画壁 51, 51 が配設され、さらに、これらの戻しエリア 52a, 53a、流入口 50、及び、左右の区画壁 51, 51 は、隣接エリア 22a, 23a の後半分側のエリアに、配設されている。

【0027】

また、上ステージ 20 の後縁側には、図 1, 2 に示すように、図柄表示装置 14 側との境界として、背面壁 26 が左右方向に沿って上方に突設され、背面壁 26 の左右方向の中央には、入賞補助通路 45 の流入側部位 46 に配設される往復移動体 47 の縦壁部 48 が、配設されている。往復移動体 47 は、後述するように、凹んだ凹部 49 を流入口 50 として、その流入口 50 を左右方向に沿って往復移動させるものである。

【0028】

ステージ部 19 の下ステージ 29 は、図 2, 3 に示すように、上面側で遊技球 B を転動可能として、左右方向の中央付近となる中央部 30 を低くし、中央部 30 の左右両側を高くするように構成され、左右の左縁 34 付近と右縁 35 付近とが、上ステージ 20 の左面部 22 と右面部 23 との外縁 22c, 23c 付近と略面一の同じ曲面として、形成されている。また、下ステージ 29 の中央部 30 には、図 5 に示すように、後部側に配置されて遊技球 B をリフト 65 に案内可能な後下がりの案内面 31 と、前部側に配置される前下がりの傾斜面 32 と、が配設されている。案内面 31 は、リフト 65 における遊技球 B の受止エリア 30a を構成することとなり、傾斜面 32 は、遊技球 B を下ステージ 29 の前縁から飾り枠体 13（センター役物 16）外の方へ自由落下させて排出する排出路 40 を構成することとなる。また、下ステージ 29 の前縁側には、図 2, 3 に示すように、傾斜面 32 が配設されたエリアを除いて、すなわち、排出路 40 のエリアを除いて、遊技球 B の前方側への落下を防止可能な突条 37, 38 が、小さな突出量として、上方に突設されている。

10

20

30

40

50

【 0 0 2 9 】

なお、ワープ通路 1 7 の出口 1 7 b は、中央部 3 0 側に向いて、下ステージ 2 9 の左縁 3 4 付近に配設されている。

【 0 0 3 0 】

また、排出路 4 0 から落下する遊技球 B は、排出路 4 0 が左右方向に幅広に開口された状態としており、入賞補助通路 4 5 の流出口 6 3 から始動入賞口 9 に向けて落下するように流出される場合と相違して、殆ど、始動入賞口 9 に入賞せずに、落下していくこととなる。

【 0 0 3 1 】

そして、遊技球 B が、図 2 , 3 に示すように、リフト 6 5 に受止保持されて上ステージ 2 0 の中央部 2 1 付近まで持ち上げられ、流入口 5 0 に流入しなかった場合には、その遊技球 B は、流入口 5 0 の左右両側の戻しエリア 5 2 a , 5 3 a を経て、左面部 2 2 と右面部 2 3 との隣接エリア 2 2 a , 2 3 a から底部 2 2 b , 2 3 b 付近まで転動し、連通口 4 3 , 4 3 を経て、底部 2 2 b , 2 3 b から下ステージ 2 9 に転動し、そして、中央部 3 0 のリフト 6 5 付近まで転動し、排出路 4 0 から排出されなければ、受止エリア 3 0 a としたの案内面 3 1 に転動し、再度、リフト 6 5 で受止保持されて循環するようなループ動作する場合が生ずる。すなわち、左面部 2 2 や右面部 2 3 は、下ステージ 2 9 とともに、連通口 4 3 , 4 3 を利用して、遊技球 B をループ動作で戻すような戻しルート 4 2 を構成している。

【 0 0 3 2 】

なお、上ステージ 2 0 と下ステージ 2 9 との間には、連通口 4 3 の部位を除いて、上ステージ 2 0 から下ステージ 2 9 側に遊技球 B が転動しないように、仕切壁 2 7 , 2 7 , 2 8 , 2 8 が、配設されている。仕切壁 2 7 , 2 7 は、下ステージ 2 9 の左縁 3 4 側と右縁 3 5 側とに配設され、仕切壁 2 8 , 2 8 は、隣接エリア 2 2 a , 2 3 a 付近に配設されている。

【 0 0 3 3 】

リフト 6 5 は、図 3 ~ 5 に示すように、下ステージ 2 9 側の遊技球 B を、上ステージ 2 0 側における流入口 5 0 付近に移送可能に、移送動作を繰り返すものである。そして、リフト 6 5 は、下ステージ 2 9 側の遊技球 B を受け止めて保持し、かつ、上ステージ 2 0 側で遊技球 B を離脱可能な受止保持部 6 7、を備えて構成されている。受止保持部 6 7 は、図 4 , 5 , 8 に示すように、下ステージ 2 9 側で受け止めた遊技球 B を略直上に移送させる構成としている。実施形態の場合、リフト 6 5 は、左右方向に沿う回転軸 C を有して回転する回転タイプとして、受止保持部 6 7 は、略円柱形状のロータ 6 6 の外周面に、遊技球 B を吸着可能な磁石 6 8 を配設させて構成されている。磁石 6 8 は、回転軸 C の軸方向に沿って、直線状に配置されるとともに、軸周り方向に 1 2 0 ° ずつ離れて、計三個配設されている。なお、磁石 6 8 は、受止保持部 6 7 での配置を遊技者が認識できるように、ロータ 6 6 の外周面側に所定の色や模様等の意匠が施されて、配設されている。

【 0 0 3 4 】

ロータ 6 6 は、その軸方向に沿う左右方向の長さ寸法 L を、図 4 の B に示すように、流入口 5 0 の左右方向の開口寸法 W H より広く設定されるとともに、下ステージ 2 9 側で受け止めた遊技球 B を、流入口 5 0 の左右方向の往復移動領域の上ステージ 2 0 側に移送可能に、設定されている。実施形態の場合、長さ寸法 L は、遊技球 B の直径寸法の 4 ~ 5 倍程度（実施形態では約 5 0 mm）としている。なお、ロータ 6 6 の回転方向は、磁石 6 8 が、受止エリア 3 0 a 側の前面側に向いた状態から、上方側に向き、さらに、流入口 5 0 内に入り込むような後方回転としている。

【 0 0 3 5 】

入賞補助通路 4 5 は、図 1 , 2 に示すように、流出側部位 5 8 に開口する流出口 6 3 を下ステージ 2 9 の下方に位置した始動入賞口 9 の上方で開口させ、また、上ステージ 2 0 の左右方向の中央付近に、流入側部位 4 6 の流入口 5 0 を開口させて構成されて、流入口 5 0 から流入した遊技球 B を、自重により、流出口 6 3 まで転動させ、流出口 6 3 から、

始動入賞口 9 へ落下させるように流出可能として、始動入賞口 9 への入賞を補助するために配設されている。この入賞補助通路 4 5 は、図 5 の A ~ C に示すように、上ステージ 2 0 の左右方向の中央付近に配置された流入口 5 0 から、上ステージ 2 0 の背面、下方、さらに、下ステージ 2 9 の左右方向の中央の下方に位置する流出口 6 3 まで、前後方向に沿った略 L 字状の通路として構成されている。さらに、実施形態の流入口 5 0 は、左右方向に沿って往復移動する往復移動体 4 7 に配設されている。

【 0 0 3 6 】

往復移動体 4 7 は、図 1 , 2 に示すように、入賞補助通路 4 5 の流入側部位 4 6 に配設され、背面壁 2 6 の中央の凹部 2 6 a に配設される縦壁部 4 8 と、縦壁部 4 8 の左右両側の下縁付近から前方側に延びる二つの横板部 5 2 , 5 3 と、を備えて構成されている。そして、流入口 5 0 は、図 2 , 4 , 5 に示すように、縦壁部 4 8 の左右方向の中央から後方側に凹んで、横板部 5 2 , 5 3 間に連なる凹部 4 9 から構成されている。流入口 5 0 の左右方向の開口寸法 W H (図 4 の B 参照) は、遊技球 B の直径寸法より僅かに大きな寸法としている。さらに、流入口 5 0 の左右両縁には、横板部 5 2 , 5 3 から前方に延びる略長方形板状の区画壁 5 1 , 5 1 が配設されている。これらの区画壁 5 1 , 5 1 は、リフト 6 5 の軸心 (回転軸 C) の直上付近まで延ばすように配設されて、リフト 6 5 から移送されてくる遊技球 B が流入口 5 0 に流入する際に、区画壁 5 1 , 5 1 間でガイドされて、流入し易いように、構成されている。そして、区画壁 5 1 , 5 1 の外側における横板部 5 2 , 5 3 の上面側は、流入口 5 0 に流入しなかった遊技球 B を戻しルート 4 2 の隣接エリア 2 2 a , 2 3 a に転動させるように、戻しエリア 5 2 a , 5 3 a を構成している。戻しエリア 5 2 a , 5 3 a は、隣接エリア 2 2 a , 2 3 a 側に遊技球 B を転動し易いように、流入口 5 0 から離れるに従って下がるような傾斜面として構成され、隣接エリア 2 2 a , 2 3 a の前後方向の略半分とした後縁側の下方に、侵入するように配設されている。

10

20

【 0 0 3 7 】

また、この往復移動体 4 7 は、流入口 5 0 がリフト 6 5 の左右両端まで移動するように、左右方向に沿って往復移動可能に、配設されている。なお、詳しく言えば、リフト 6 5 の受止保持部 6 7 の左端や右端で受止保持する遊技球 B を流入口 5 0 に流入可能に、左右の区画壁 5 1 が、それぞれ、隣接エリア 2 2 a , 2 3 a に接触するまで、左右方向に往復移動する。

【 0 0 3 8 】

すなわち、この往復移動体 4 7 では、図 2 ~ 4 に示すように、戻しエリア 5 2 a , 5 3 a 上に移送された遊技球 B を隣接エリア 2 2 a , 2 3 a 側に転動可能とするように、戻しエリア 5 2 a , 5 3 a は、流入口 5 0 から離れるに従って下がる斜面として、左右方向の往復移動時、横板部 5 2 , 5 3 の戻しエリア 5 2 a , 5 3 a の部位が、戻しエリア 5 2 a , 5 3 a 上に移送された遊技球 B を隣接エリア 2 2 a , 2 3 a 側に転動可能な状態を維持して、隣接エリア 2 2 a , 2 3 a の下方に、交互に、進入することとなる。そのため、戻しエリア 5 2 a , 5 3 a が交互に隣接エリア 2 2 a , 2 3 a の下方に侵入する必要があるため、この往復移動体 4 7 は、左右方向に沿う鉛直面で、かつ、正面視で流出口 6 3 付近を中心とするような回動運動によって、左右方向に沿って往復移動することとなる。そして、この往復移動体 4 7 は、リフト 6 5 を回転駆動させる駆動モータ等の駆動源からの駆動力を、図示しない歯車機構やカム・リンク機構等の動力伝達機構により伝動されて、回動運動を伴って左右方向に往復移動するように、飾り枠体 1 3 内で支持されている。

30

40

【 0 0 3 9 】

さらに、往復移動体 4 7 は、図 5 , 8 に示すように、左右の区画壁 5 1 の下端側に、前方へ湾曲して延びるような下縁部 5 4 を備えている。そして、下縁部 5 4 は、縦壁部 4 8 の凹部 4 9 の下縁側と連なって、筒状体 5 6 を結合させる略円筒状の連結筒部 5 5 を形成している。

【 0 0 4 0 】

筒状体 5 6 は、図 5 , 7 , 8 に示すように、上端側を連結筒部 5 5 に結合させ、下端側を入賞補助通路 4 5 の流出側部位 5 8 の略円筒状の連結筒部 5 8 a に結合させている。こ

50

の筒状体 5 6 は、遊技球 B を流入側部位 4 6 から、移動せずに固定されて配設されている流出側部位 5 8 まで案内するものであり、往復移動体 4 7 の左右方向の往復移動に追従する可撓性を有した合成樹脂やゴム等からなる蛇腹管、あるいは、合成樹脂、ゴム、金属等からなるコイルスプリング等の筒体から形成されている。実施形態の場合、遊技球 B の直径寸法より僅かに大きな内径寸法を有した合成樹脂製の蛇腹管が使用されている。

【 0 0 4 1 】

入賞補助通路 4 5 の流出側部位 5 8 は、図 5 に示すように、下ステージ 2 9 の下方に前後方向に沿って貫通するとともに、後端の連結筒部 5 8 a から前下がりに傾斜するように配設され、前端に開口させた流出口 6 3 を始動入賞口 9 の直上に配置させている。そして、流出口 6 3 の近傍には、流出口 6 3 側に向かう遊技球 B に対して、少なくとも下方と左右両側とから接触し、流出口 6 3 から始動入賞口 9 に向かう遊技球 B の流出方向を安定させる案内部 5 9 が、配設されている。実施形態の案内部 5 9 は、略四角筒形状として、上方側の天井壁部 6 0 と、下面側の底壁部 6 1 と、左右の側壁部 6 2 , 6 2 と、を備えて構成され、左右の側壁部 6 2 , 6 2 が、前方に向かうに連れて左右方向の幅寸法を狭めるテーパ面部 6 2 a , 6 2 a と、前後方向で相互に平行となるストレート部 6 2 b , 6 2 b と、を配設させて構成されている（図 7 参照）。ストレート部 6 2 b , 6 2 b の左右方向の開口寸法 W E は、遊技球 B の直径寸法より僅かに大きな寸法としている。この案内部 5 9 では、連結筒部 5 8 a から前方に向かう遊技球 B が、テーパ面部 6 2 a , 6 2 a からストレート部 6 2 b , 6 2 b の相互の間を通過する際、減速されつつ左右のブレを抑制されて、前方に向かう安定した直進性を付与されるとともに、入賞確率をより高めた安定した速度で、流出口 6 3 から始動入賞口 9 に向けて流出（落下）させることができる。

【 0 0 4 2 】

なお、実施形態の場合、往復移動体 4 7 が左右方向に一往復する際、リフト 6 5 が一回転するように、構成されている。

【 0 0 4 3 】

実施形態の遊技機 1 の作動を説明すれば、電源オンとともに、図示しない駆動源と動力伝達機構とによって、往復移動体 4 7 が左右方向に沿って往復移動するとともに、リフト 6 5 が後方回転することとなる。そして、遊技時、ワープ通路 1 7 の入口 1 7 a に遊技球 B が入球されれば、遊技球 B は、出口 1 7 b から下ステージ 2 9 に転動する（図 3 , 4 参照）。

【 0 0 4 4 】

この転動時、遊技球 B が、リフト 6 5 の受止保持部 6 7 に受止保持されれば、上ステージ 2 0 側に移送される。その際、入賞補助通路 4 5 の流入口 5 0 が、左右方向に沿って往復移動しており、また、リフト 6 5 の受止保持部 6 7 が、左右方向の長さ寸法 L を流入口 5 0 の左右方向の開口寸法 W H より広く設定され（図 4 の B 参照）、かつ、下ステージ 2 9 側で受け止めた遊技球 B を、流入口 5 0 の左右方向の往復移動領域の上ステージ 2 0 側に移送可能に、配設されている。そのため、リフト 6 5 の受止保持部 6 7 に保持された遊技球 B が、上ステージ 2 0 側に移送される際、確実に流入口 5 0 に流入するわけではなく、流入口 5 0 に流入する（図 5 参照）か、あるいは、否か（図 6 参照）として、遊技者にハラハラドキドキさせることとなる。そして、リフト 6 5 で移送された遊技球 B が流入口 5 0 に流入しなくとも、流入口 5 0 が、移送時に流入口 5 0 に流入しなかった遊技球 B を上ステージ 2 0 の戻しルート 4 2 のエリアである戻しエリア 5 2 a , 5 3 a に転動可能として、左右方向に沿って往復移動するように、配設されており、流入口 5 0 への流入を外した遊技球 B は、遊技を完了させることなく、戻しルート 4 2 の戻しエリア 5 2 a , 5 3 a や隣接エリア 2 2 a , 2 3 b、さらに、左面部 2 2 , 2 3 の底部 2 2 b , 2 3 b、連通口 4 3 , 4 3 を経て、下ステージ 2 9 側に転動できる。そして、排出路 4 0 からセンター役物 1 6（飾り枠体 1 3）外に排出されずに、下ステージ 2 9 側のリフト 6 5 の受止エリア 3 0 a に配置されれば、再度、流入口 5 0 に流入可能に、リフト 6 5 によって移送される。すなわち、リフト 6 5 で移送された遊技球 B が左右に往復移動する流入口 5 0 に流入しなくとも、流入口 5 0 への流入を外した遊技球 B は、排出路 4 0 からセンター役物 1 6 外

に排出される場合を除いて、流入口 5 0 に流入されるまで、上記の動作がリプレイされることとなって、遊技の趣向性を向上させることができる。

【 0 0 4 5 】

したがって、実施形態の遊技機 1 では、左右に往復移動する流入口 5 0 と、その移動する流入口 5 0 の周囲に、遊技球 B が、流入口 5 0 に流入しなくとも、その遊技球 B をリプレイできるように下ステージ 2 9 側に転動させる戻しルート 4 2 の戻しエリア 5 2 a , 5 3 a と、を配設させているため、遊技球 B がリフト 6 5 によって流入口 5 0 付近に移送される際の遊技の趣向性を、一層、向上させることができる。

【 0 0 4 6 】

そして、実施形態の遊技機 1 では、入賞補助通路 4 5 の内周に、流出口 6 3 側に向かう遊技球 B に対して、少なくとも下方と左右両側とから接触し、流出口 6 3 から始動入賞口 9 に向かう遊技球 B の流出方向を安定させる案内部 5 9 を、配設させている（図 7 参照）。そのため、入賞補助通路 4 5 の流入口 5 0 に流入した遊技球 B を、始動入賞口 9 への入賞確率を高めて、流出口 6 3 から始動入賞口 9 へ向けて流出させることができる。すなわち、実施形態の遊技機 1 では、左右に往復移動する流入口 5 0 に流入した遊技球 B は、流入口 5 0 への流入時における流入口 5 0 自体の左右方向への往復移動により、入賞補助通路 4 5 を通過する際、左右方向へのブレを伴って、流出口 6 3 側に転動し易い。しかし、実施形態では、案内部 5 9 の底壁部 6 1、及び、左右の側壁部 6 2 のテーパ面部 6 2 a 相互やストレート部 6 2 b 相互が、流出口 6 3 側に向かう遊技球 B に対して、少なくとも下方と左右両側とから接触することにより、減速させつつ、遊技球 B の左右方向へのブレを抑制できて、入賞し易い軌跡となるような速度の自由落下とし、かつ、流出口 6 3 から始動入賞口 9 に向かう遊技球 B の流出方向を、前向きの直線状として、安定させることから、入賞確率を高めて、遊技球 B を流出口 6 3 から始動入賞口 9 へ向けて流出させることができる。

【 0 0 4 7 】

なお、案内部としては、図 9 に示す案内部 5 9 A のように、ある程度の形状保持性を有して弾性変形可能なゴムや合成樹脂からなるリップ形状（ヒレ形状）の弾性支持部 6 2 c , 6 2 c を左右の側壁部 6 2 , 6 2 に設けてもよい。このような案内部 5 9 A では、弾性支持部 6 2 c , 6 2 c が、底壁部 6 1 を転動する遊技球 B の前面に左右で均等に撓みつつ接触するように配設されており、遊技球 B との接触時、前方側への直進性を付与しつつ遊技球 B を減速させることができる。

【 0 0 4 8 】

さらに、実施形態では、入賞補助通路 4 5 に、遊技球 B を案内部 5 9 側に案内可能に流入口 5 0 側に連通し、流入口 5 0 の左右方向の移動に追従可能な可撓性を有した筒状体 5 6 を配設させている（図 5 , 7 , 8 参照）。そのため、実施形態では、流入口 5 0 から流入した遊技球 B が、案内部 5 9 に到達する前の筒状体 5 6 を通過する際に、転動する軌跡を、大きな曲率で屈曲させることなく（入賞補助通路 4 5 の内周壁に直線的に反射させることなく）、左右のぶれを抑制できるように曲線状として、通過させることができ、案内部 5 9 に到達する前に、極力、遊技球 B の流出方向を直線的に安定させることができ、案内部 5 9 を経て、一層、入賞確率を高めて、遊技球 B を流出口 6 3 から始動入賞口 9 へ向けて流出させることができる。

【 0 0 4 9 】

また、実施形態では、リフト 6 5 の受止保持部 6 7 が、遊技球 B を吸着する磁石 6 8 を利用して、遊技球 B を受け止めた位置の略直上の上ステージ 2 0 側に移送できるように、構成されている（図 4 , 5 , 6 参照）。そのため、実施形態では、受止保持部 6 7 で受け止めて上ステージ 2 0 側に移送する際、左右に大きく転動せずに、受け止めた位置の略直上に遊技球 B を移送できることから、左右に移動する流入口 5 0 の開口面 5 0 a（実施形態の場合には、リフト 6 5 の軸心（回転軸 C）の直上付近に配設された区画壁 5 1 , 5 1 の前端相互の間の面となる）に対して、直交する方向で遊技球 B を移送できて、流入口 5 0 に遊技球 B を流入させ易くなる。

10

20

30

40

50

【 0 0 5 0 】

特に、実施形態の場合には、磁石 6 8 が、リフト 6 5 の回転軸 C に沿うように、直線状に配設されており、受止保持部 6 7 における磁石 6 8 を設けたリフト 6 5 の軸方向に沿う全域の任意の位置で、遊技球 B を吸着して直上に移送できる。そのため、吸着された遊技球 B のリフト 6 5 の回転軸 C の軸方向に沿う位置が、吸着された遊技球 B 毎に微妙に異なることとなり、遊技球 B の吸着された位置の直上に流入口 5 0 が配置されるか否か、吸着された遊技球 B 毎に、ハラハドキドキできて、遊技の趣向性を向上させることができる。なお、実施形態では、棒状の磁石 6 8 を使用して、回転軸 C に沿って直線状に磁石 6 8 を配置させた場合を示したが、円板状等の多数の磁石を利用して、これらの磁石を、回転軸 C に沿って直線状にロータ 6 6 の外周面に配設させてもよい。

10

【 0 0 5 1 】

なお、上記の点を考慮しなければ、図 1 0 ~ 1 1 に示す遊技機 1 B のリフト 6 5 B のように、磁石 6 9 , 7 0 を、リフト 6 5 B の回転軸 C に沿う方向で、回転軸 C の軸周り方向にずらして、配設してもよい。図例の場合には、リフト 6 5 の受止保持部 6 7 の左側部 6 7 a と右側部 6 7 b とのそれぞれの軸方向の中央付近に、軸周り方向に 1 2 0 ° ずらして、円板状の磁石 6 9 を 3 個ずつ配設し、受止保持部 6 7 の中央部 6 7 c の軸方向の中央付近に、軸周り方向に 1 8 0 ° ずらして、円板状の磁石 7 0 を 2 個配設させている。そして、左側部 6 7 a と右側部 6 7 b との各磁石 6 9 は、リフト 6 5 B の軸周り方向に一致する角度位置に配設されているものの、中央部 6 7 c の各磁石 7 0 は、一つの磁石 7 0 が一つの磁石 6 9 とリフト 6 5 B の軸周り方向に一致する角度位置に配設されている。このようなリフト 6 5 B では、実施形態のリフト 6 5 のように、受止保持部 6 7 における磁石 6 8 を設けたリフト 6 5 の軸方向に沿う全域の任意の位置で遊技球 B を吸着できず、磁石 6 9 , 7 0 の配置位置で遊技球 B を吸着して、上ステージ 2 0 側に移送することとなる。そして、このリフト 6 5 B は、リフト 6 5 と相違して、逆に、受止保持部 6 7 の遊技球 B の吸着される箇所が磁石 6 9 , 7 0 の位置となるため、遊技球 B の吸着された位置の直上に流入口 5 0 が配置されるか否か、予測し易くなる。なお、各磁石 6 9 , 7 0 は、数や、リフト 6 5 B の軸周り方向での配置位置を、適宜、変更してもよい。

20

【 0 0 5 2 】

なお、実施形態では、仕切壁 2 7 , 2 8 をステージ部 1 9 に固定したものを示したが、図 1 2 ~ 1 7 に示す遊技機 1 C のように、リフト 6 5 の受止保持部 6 7 への遊技球 B の受止位置を変更させるように、仕切壁 2 8 と近似した可動片 7 2 , 7 7 を移動させる構成としてもよい。

30

【 0 0 5 3 】

この遊技機 1 C では、下ステージ 2 9 側におけるリフト 6 5 の前側に、可動片 7 2 , 7 7 が配設されている。各可動片 7 2 , 7 7 は、図 1 4 , 1 5 に示すように、左右方向に沿って往復移動し、下ステージ 2 9 を転動する遊技球 B に接触して、遊技球 B のリフト 6 5 の受止保持部 6 7 に受止保持される部位を変更させるものである。具体的には、可動片 7 2 , 7 7 は、左右方向に沿って、相互に接近しかつ離隔するように往復移動し、相互の接近時、図 1 4 の A や図 1 5 の A に示すように、受止保持部 6 7 の左右両側の部位（左側部 6 7 a と右側部 6 7 b ）の前側を覆って、受止保持部 6 7 の左右方向の中央部 6 7 c の前側を開け、相互の離隔時に、図 1 4 の C や図 1 5 の B に示すように、受止保持部 6 7 の前側の全域を開けるように、配設されている。

40

【 0 0 5 4 】

なお、左右の可動片 7 2 , 7 7 は、それぞれ、仕切壁 2 7 , 2 7 に近似した装飾体 7 4 , 7 9 を一体的に連結させた可動体 7 1 , 7 6 に配設されて、装飾体 7 4 , 7 9 とともに、雲形状の意匠を施された略半円板状として、上ステージ 2 0 と下ステージ 2 9 との間の左右に延びたスリット 1 9 a , 1 9 b , 1 9 c から上方に突出している（図 1 2 , 1 3 参照）。各可動体 7 1 , 7 6 は、それぞれ、可動片 7 2 , 7 7 と装飾体 7 4 , 7 9 とを連結杆部 7 3 , 7 8 （図 1 6 の A、図 1 7 の A 参照）によって連結して構成されている。連結杆部 7 3 は、リフト 6 5 の左方側の可動片 7 2 と右面部 2 3 側の連通口 4 3 付近に配置さ

50

れる装飾体 7 4 とを、下ステージ 2 9 の下方側で連結している。また、連結杆部 7 8 は、リフト 6 5 の右方側の可動片 7 7 と左面部 2 2 側の連通口 4 3 付近に配置される装飾体 7 9 とを、下ステージ 2 9 の下方側で連結している。

【 0 0 5 5 】

これらの可動体 7 1 , 7 6 は、相互に略左右対称形に形成され、図示しない回動カムの回転により、左右方向に沿って往復移動することとなる。

【 0 0 5 6 】

ちなみに、可動体 7 1 の往復移動時には、図 1 5 の A , B に示すように、可動片 7 2 が、左側部 6 7 a の前側を覆いかつ中央部 6 7 c の前側を隠さない状態から、左側部 6 7 a の前側を覆わない状態まで、左方側に移動するように、往復移動し、その際、装飾体 7 4 は、左端側に移動した際、右面部 2 3 側の連通口 4 3 の前側を塞ぎ、右端側に移動した際、その連通口 4 3 を開口することとなる。なお、装飾体 7 4 が右面部 2 3 側の連通口 4 3 の前側を閉口している際、実施形態の場合には、右側の可動片 7 7 が右端側に移動しており、右面部 2 3 側の連通口 4 3 の前側が、装飾体 7 4 と可動片 7 7 の右縁付近とによって、二枚重ねで塞がれることとなる。

【 0 0 5 7 】

また、可動体 7 6 の往復移動時には、図 1 5 の A , B に示すように、可動片 7 7 が、右側部 6 7 b の前側を覆いかつ中央部 6 7 c の前側を隠さない状態から、右側部 6 7 b の前側を覆わない状態まで、右方側に移動するように、往復移動し、その際、装飾体 7 9 は、右端側に移動した際、左面部 2 2 側の連通口 4 3 の前側を塞ぎ、左端側に移動した際、その連通口 4 3 を開口することとなる。なお、装飾体 7 9 が左面部 2 2 側の連通口 4 3 の前側を閉口している際、実施形態の場合には、左側の可動片 7 2 が左端側に移動しており、左面部 2 2 側の連通口 4 3 の前側が、装飾体 7 9 と可動片 7 2 の左縁付近とによって、二枚重ねで塞がれることとなる。

【 0 0 5 8 】

これらの可動体 7 1 , 7 6 は、それぞれ、図示しない回動カムが歯車機構やリンク機構等の動力伝達機構を利用して、往復移動体 4 7 を往復移動させたり、リフト 6 5 を回転駆動させる駆動モータ等の駆動源と機械的に連結されており、駆動源の作動時、往復移動体 4 7 や可動体 7 1 , 7 6 の左右方向に沿う往復移動とリフト 6 5 との回転とが、連動して動作されるように構成されている。

【 0 0 5 9 】

ちなみに、この遊技機 1 C では、往復移動体 4 7 が左右方向に一往復する際、可動体 7 1 , 7 6 も左右方向に一往復し、また、リフト 6 5 が一回転するように、構成されている。但し、この往復移動体 4 7 と可動体 7 1 , 7 6 との移動するタイミングや周期は適宜変更してもよい。

【 0 0 6 0 】

この遊技機 1 C では、下ステージ 2 9 側のリフト 6 5 における受止保持部 6 7 の前側に、左右方向に沿って往復移動するように配設されて、遊技球 B のリフト 6 5 の受止保持部 6 7 に受止保持される部位を変更させるように、下ステージ 2 9 を転動する遊技球 B に接触する可動片 7 2 , 7 7 が、配設されている。そのため、遊技球 B が下ステージ 2 9 を転動して受止保持部 6 7 の磁石 6 8 で受止保持される際、図 1 6 に示すように、遊技球 B が流入口 5 0 に流入したり、あるいは、図 1 7 に示すように、遊技球 B が戻しルート 4 2 に転動される戻しエリア 5 3 a に移送される場合が生ずる。そして、この遊技機 1 C では、流入口 5 0 の左右の往復移動のタイミングにより、受止保持部 6 7 のどの位置で受け止められれば、流入口 5 0 に流入するかが予測されていても、その遊技球 B の受止保持部位での実際の受止位置が、遊技球 B の可動片 7 2 , 7 7 との接触により、流入口 5 0 に流入し易い位置、あるいは、流入口 5 0 に流入し難い位置に、変更され、実際の移送動作が開始されるまで、どの位置で、受止保持されるかが予測し難くなって、遊技の趣向性を向上させることができる。

【 0 0 6 1 】

なお、この遊技機 1 C でも、図 10 に示すリフト 6 5 B を使用してもよい。この場合、遊技球 B の吸着される位置が、可動片 7 2 , 7 7 で前側を覆われるか、あるいは、前側を覆われないかによって、リフト 6 5 B の左側部 6 7 a や右側部 6 7 b の磁石 6 9 の位置となるか、あるいは、中央部 6 7 c の磁石 7 0 の位置となるか、大きくずれるため、実際の移送動作が開始されるまで、どの位置で、受止保持されるか予測し難くなって、遊技の趣向性を向上させることができる。

【 0 0 6 2 】

また、図 1 2 ~ 1 7 に示す遊技機 1 C では、ステージ部 1 9 上で突出するとともに可動片 7 2 , 7 7 に連動して左右に往復移動する装飾体 7 4 , 7 9 が、可動片 7 2 , 7 7 に連結させて配設されている。実施形態の装飾体 7 4 , 7 9 は、可動片 7 2 , 7 7 とともに、雲型等の意匠が施されている。そのため、遊技機 1 C では、可動片 7 2 , 7 7 と装飾体 7 4 , 7 9 との左右方向に沿う往復移動により、往復移動体 4 7 の左右方向の往復移動とともに、ステージ部 1 9 での演出効果を一層高めることもできる。

10

【 0 0 6 3 】

また、既述の遊技機 1 , 1 B , 1 C では、遊技球 B を受止保持するリフトとして、左右方向に沿う回転軸 C を有して回転し、磁石 6 8 , 6 9 , 7 0 を受止保持部 6 7 に利用した回転タイプのリフト (回転リフト) 6 5 , 6 5 B を例示したが、遊技球 B を略直上の移送可能な他の回転タイプのリフトとしては、受止保持部を、遊技球を保持可能なバケットや羽根から構成したものでもよい。但し、リフト 6 5 , 6 5 B のように、受止保持部 6 7 が、略円柱形状として、外周面に、遊技球 B を吸着可能な磁石 6 8 , 6 9 , 7 0 を配設させて構成されれば、受止保持部を、遊技球を保持可能なバケットや羽根から構成する場合に比べて、直径寸法をコンパクトに構成でき、ステージ部 1 9 の前後方向の幅寸法に制限のある場合に好適となる。

20

【 0 0 6 4 】

また、遊技球を受止保持するリフトとしては、上面側を、下ステージ 2 9 側で遊技球 B を受け止めて上ステージ 2 0 側に上昇させ、流入口 5 0 や隣接エリア 2 2 a , 2 3 a に転動させるような受止保持部として、上下動を繰り返す上下往復移動タイプとしてもよい。

【 0 0 6 5 】

また、実施形態では、案内部 5 9 や筒状体 5 6 を設けた場合を示したが、案内部 5 9 のテーパ面部 6 2 a やストレート部 6 2 b を設けずに構成したり、あるいは、筒状体 5 6 を設けずに構成してもよい。この場合の構成としては、図 1 8 , 1 9 に示す遊技機 1 D に示すように、連結筒部 5 5 , 5 8 a を設けずに、流入口 5 0 D から流出側部位 5 8 まで連通するように、上ステージ 2 0 と下ステージ 2 9 との下方に設ける内部空間を入賞補助通路 4 5 として構成してもよい。このような構成では、リフト 6 5 に吸着されて流入口 5 0 D に流入してきた遊技球 B は、横板部 5 7 や重量で、リフト 6 5 から離脱させて、流出側部位 5 8 側に落下させ、流出口 6 3 から始動入賞口 9 に向けて流出させることとなる。

30

【 0 0 6 6 】

さらに、上記の遊技機 1 D のように、入賞補助通路 4 5 の左右方向に沿って往復移動する流入口 5 0 D の構成として、上下に往復移動する往復移動体 4 7 D としての縦壁部 4 8 D に、前後に貫通するとともに斜め方向に延びる貫通穴 4 8 a を設け、上ステージ 2 0 の中央部 2 1 におけるリフト 6 5 の上後側に、後下がり左右に下がる横板部 5 7 を設け、横板部 5 7 の上面側を案内面兼用の戻しエリア 5 7 a として構成してもよい。貫通穴 4 8 a の左右方向の開口寸法は、一個分の遊技球 B を挿通可能な寸法に設定されている。この遊技機 1 D では、往復移動体 4 7 D の縦壁部 4 8 D が、横板部 5 7 の後縁 5 7 b 側で上下に往復移動し、貫通穴 4 8 a における横板部 5 7 の後縁 5 7 b 付近に位置する部位が、実質的に左右方向に往復移動する流入口 5 0 D となる。すなわち、後縁 5 7 b 付近の流入口 5 0 D は、図 1 9 の C に示すように、例えば、縦壁部 4 8 D が最上昇位置に配置されれば、流入口 5 0 D がリフト 6 5 の左側部 6 7 a 側に配置され、図 1 9 の A に示すように、縦壁部 4 8 D が最下降位置に配置されれば、流入口 5 0 D がリフト 6 5 の右側部 6 7 b 側に配置されて、縦壁部 4 8 D の上下往復移動によって、実質的に遊技球 B を入賞補助通路 4

40

50

5 に流入させる流入口 50D が、左右方向に往復移動することとなり、このように流入口 50D を構成してもよい。

【0067】

なお、実施形態では、デジパチタイプの遊技機 1 について説明したが、デジパチタイプ以外のセンター役物のあるハネモノタイプのパチンコ遊技機等に、本発明を適用してもよい。

【0068】

また、実施形態では、ステージ部 19 への遊技球 B の入球が、パイプ状のワープ通路 17 からなる入球口を使用して行われる場合を例示したが、単に、飾り枠体 13 の内外を貫通する入球口を利用して、ステージ部 19 上に遊技球 B を入球させるように構成してもよい。

10

【0069】

さらに、リフト 65, 65B、あるいは、ステージ部 19 の中央部 21, 30 付近は、内部を通過する遊技球 B を視認できるように、ある程度の透明度を有した合成樹脂材料等からなる透明体（若しくは半透明体）から形成してもよい。

【図面の簡単な説明】

【0070】

【図 1】本発明の一実施形態のパチンコ遊技機における遊技盤面を示す概略正面図である。

【図 2】実施形態のセンター役物を示す概略斜視図であり、流入口が左右方向の中央付近に配置された状態を示す。

20

【図 3】実施形態のセンター役物を示す概略斜視図であり、流入口が左側に配置された状態を示す。

【図 4】実施形態のリフト付近の概略正面図であり、流入口が左側から右側に順に移動する状態を示す。

【図 5】実施形態のリフト付近における図 4 の A の V - V 部位に対応する前後方向に沿った概略縦断面図であり、遊技球を吸着して流入口に流入させる状態を順に示す。

【図 6】実施形態のリフト付近における図 4 の A の VI - VI 部位に対応する前後方向に沿った概略縦断面図であり、遊技球を吸着して戻しエリアに移送する状態を順に示す。

【図 7】実施形態の流出口付近における図 5 の C の VII - VII 部位に対応する前後方向に沿った概略横断面図である。

30

【図 8】実施形態のリフトと流入口を配置させた往復移動体とを示す概略斜視図である。

【図 9】実施形態の案内部の変形例を示す概略横断面図である。

【図 10】実施形態のリフトの変形例を示す斜視図である。

【図 11】図 10 に示すリフトを使用した遊技機のリフト付近の概略正面図であり、流入口が左側から右側に順に移動する状態を示す。

【図 12】実施形態の変形例の遊技機を示す斜視図であり、流入口が左右方向の中央付近に配置された状態を示す。

【図 13】図 12 に示す遊技機の斜視図であり、流入口が左側に配置された状態を示す。

【図 14】図 12 に示す遊技機のリフト付近の概略正面図であり、流入口が左側から右側に順に移動する状態を示す。

40

【図 15】図 12 に示す遊技機のステージ部の概略正面図であり、可動片が移動する状態を示す。

【図 16】図 12 に示す遊技機のリフト付近における前後方向に沿った概略縦断面図であり、遊技球を吸着して流入口に流入させる状態を順に示す。

【図 17】図 12 に示す遊技機の前後方向に沿った概略縦断面図であり、遊技球を吸着して戻しエリアに移送する状態を順に示す。

【図 18】実施形態のさらに他の変形例を示す遊技機の概略縦断面図である。

【図 19】図 18 に示す遊技機の概略正面図であり、流入口が右側から左側に順に移動する状態を示す。

50

【符号の説明】

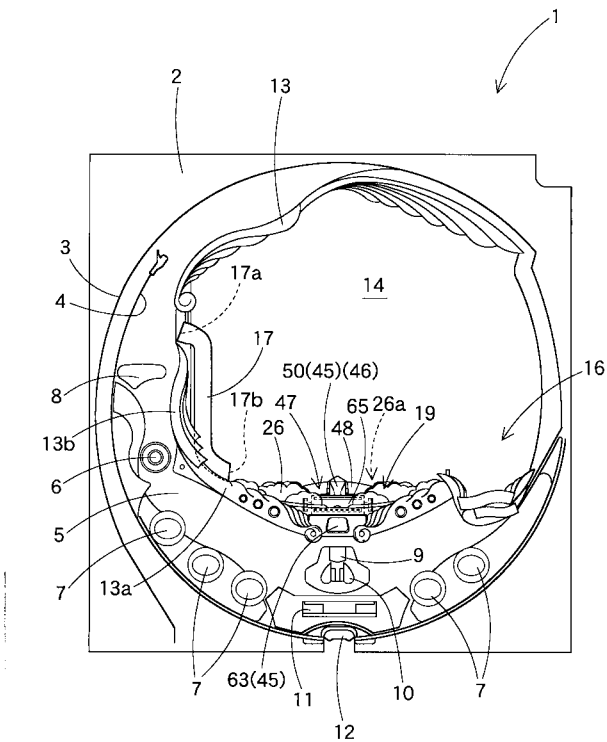
【0071】

1, 1B, 1C, 1D ... (パチンコ) 遊技機、
 9 ... (始動) 入賞口、
 16 ... センター役物、
 19 ... ステージ部、
 20 ... 上ステージ、
 29 ... 下ステージ、
 30a ... 受止エリア、
 40 ... 排出路、
 42 ... 戻しルート、
 43 ... 連通口、
 45 ... 入賞補助通路、
 50, 50D ... 流入口、
 63 ... 流出口、
 65, 65B ... リフト、
 67 ... 受止保持部、
 68, 69, 70 ... 磁石、
 72, 77 ... 可動片、
 B ... 遊技球。

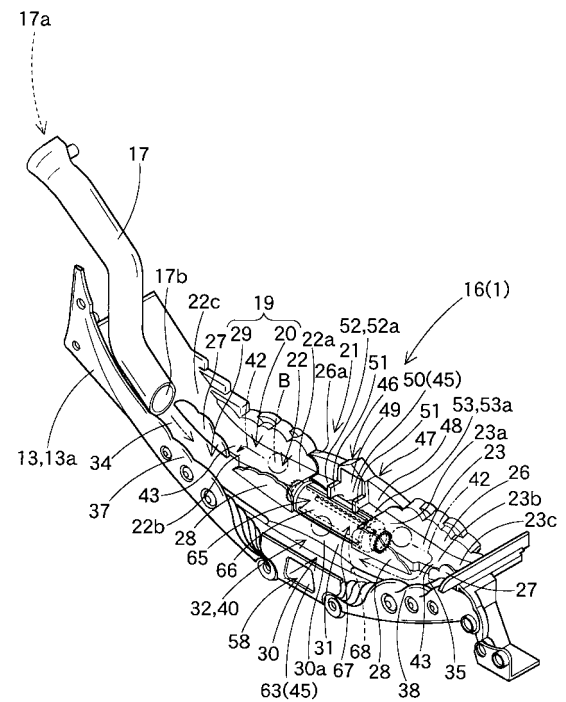
10

20

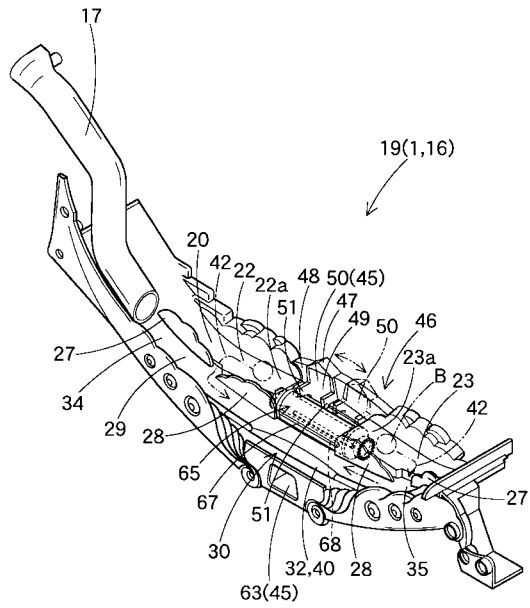
【図1】



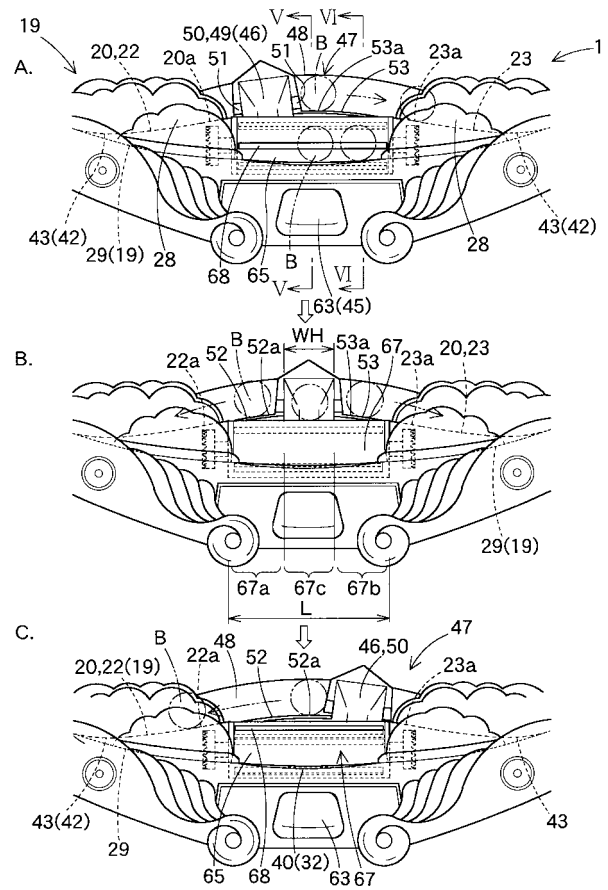
【図2】



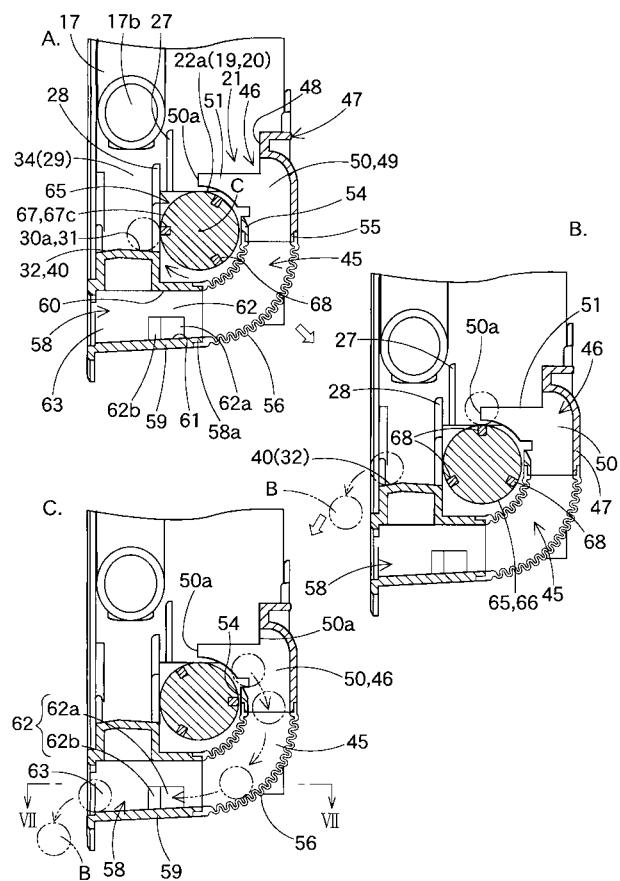
【 図 3 】



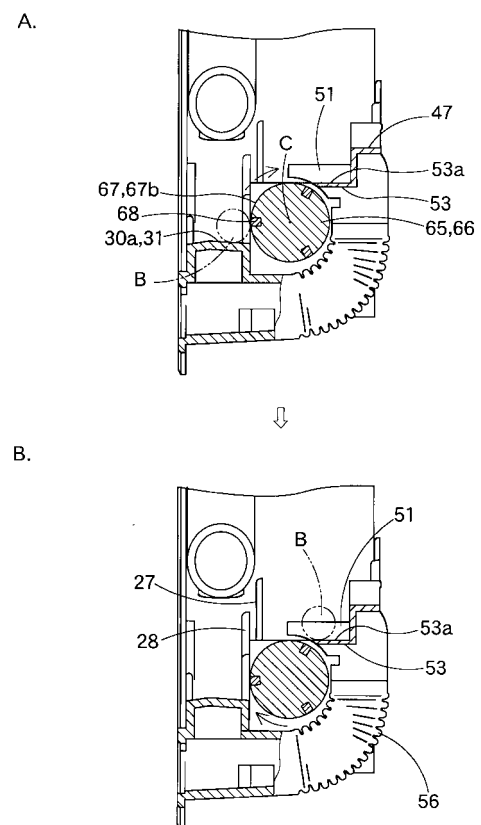
【 図 4 】



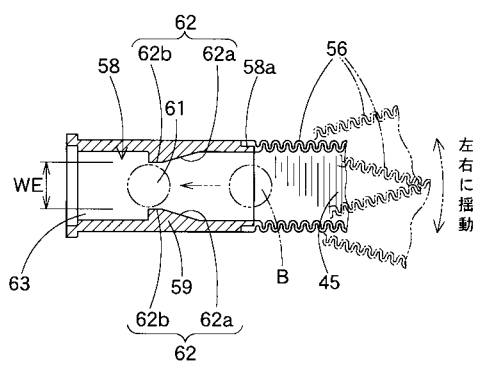
【 図 5 】



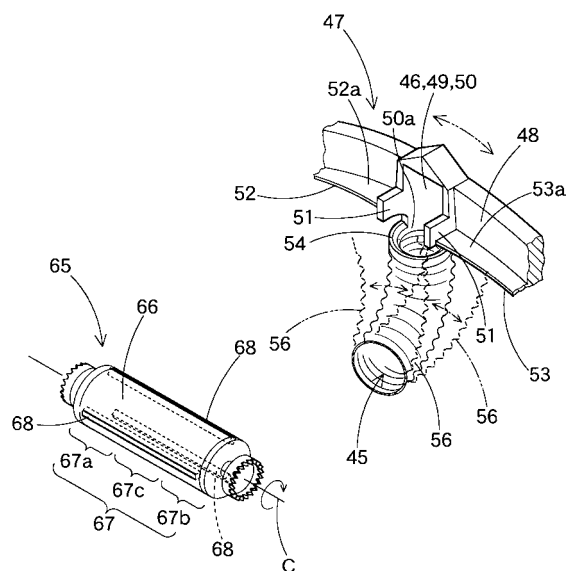
【 図 6 】



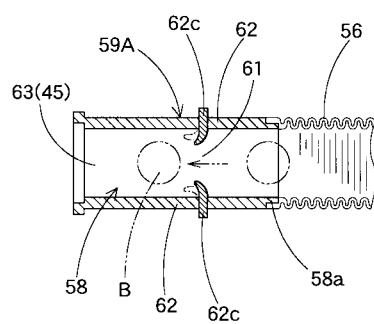
【圖 7】



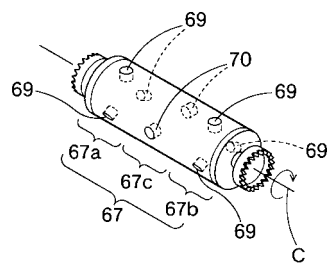
【 図 8 】



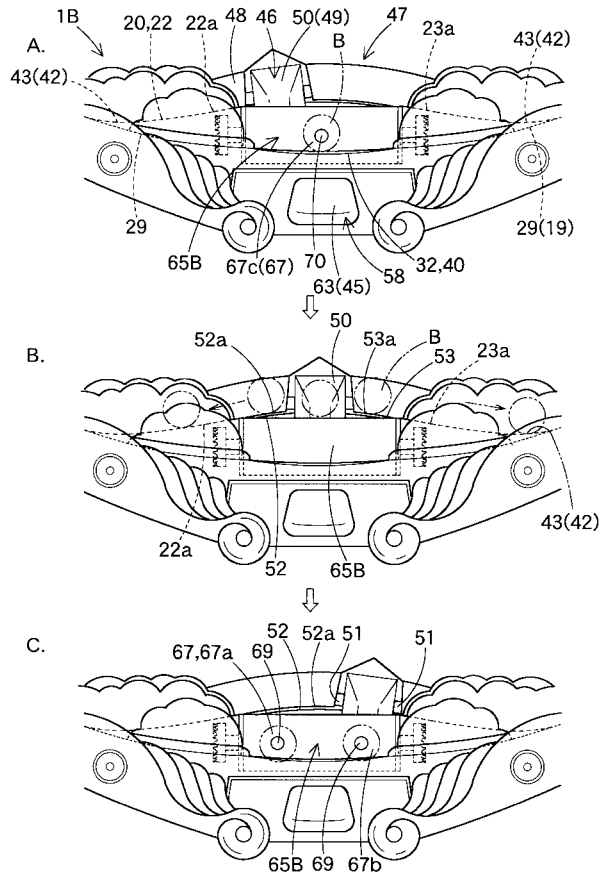
【 図 9 】



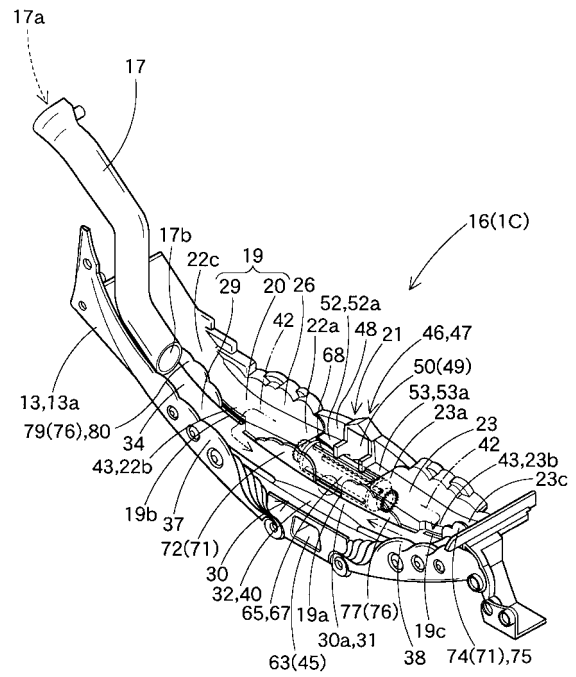
【 図 1 0 】



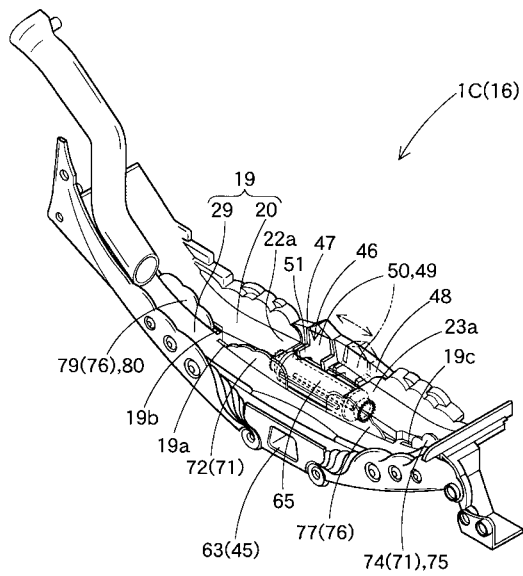
【図 1 1】



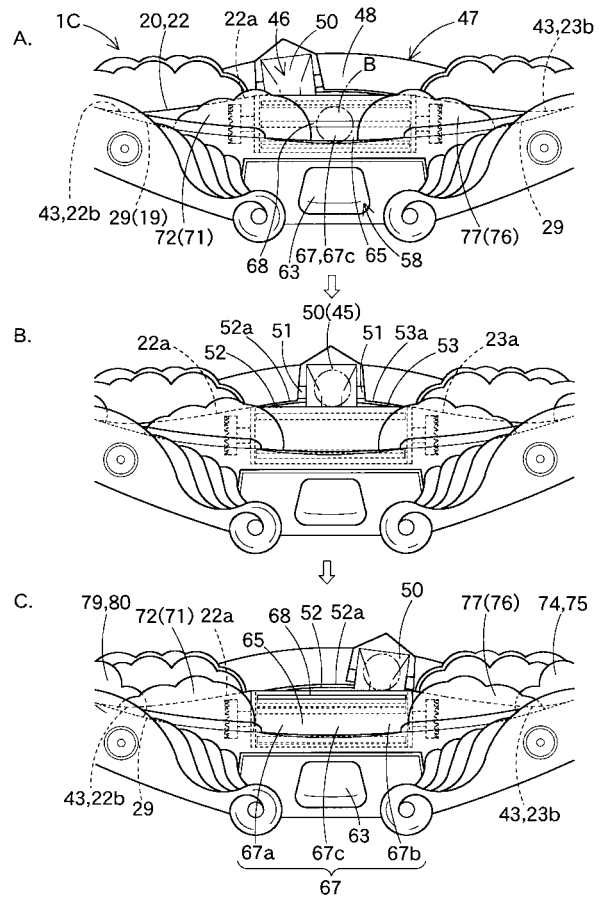
【図 1 2】



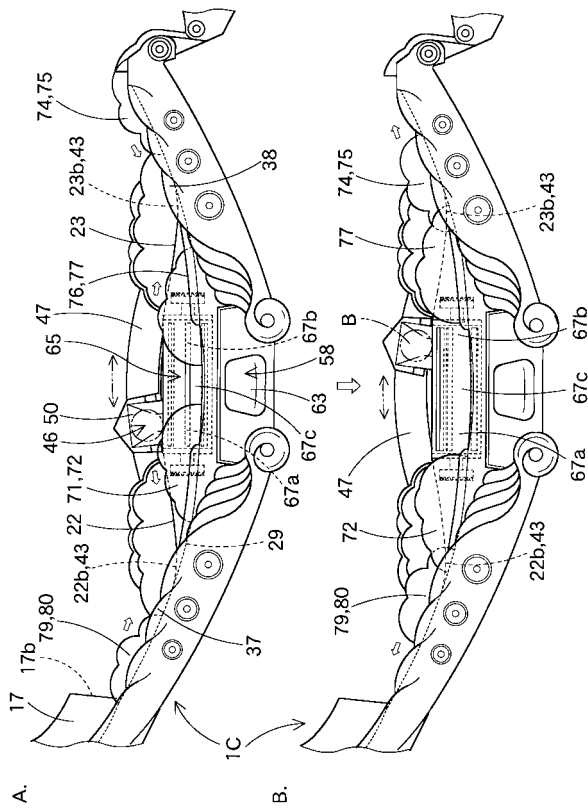
【図 1 3】



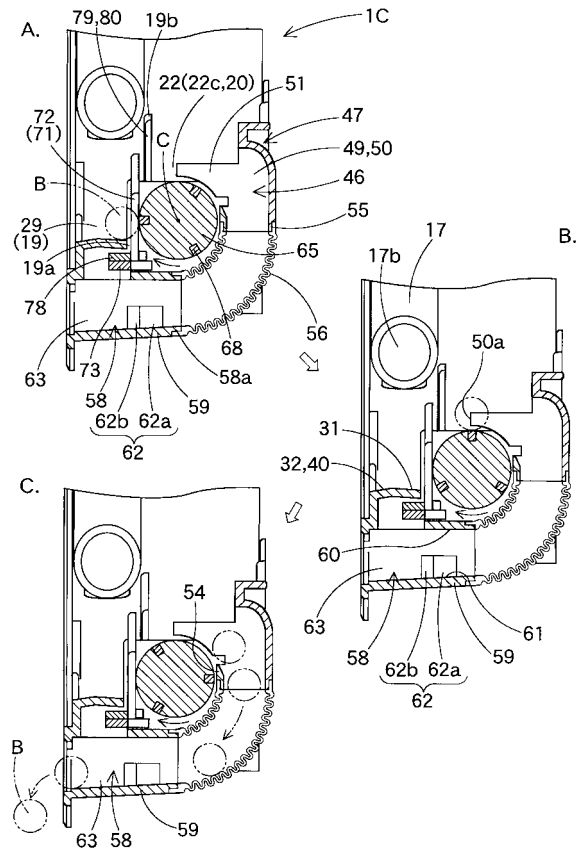
【図 1 4】



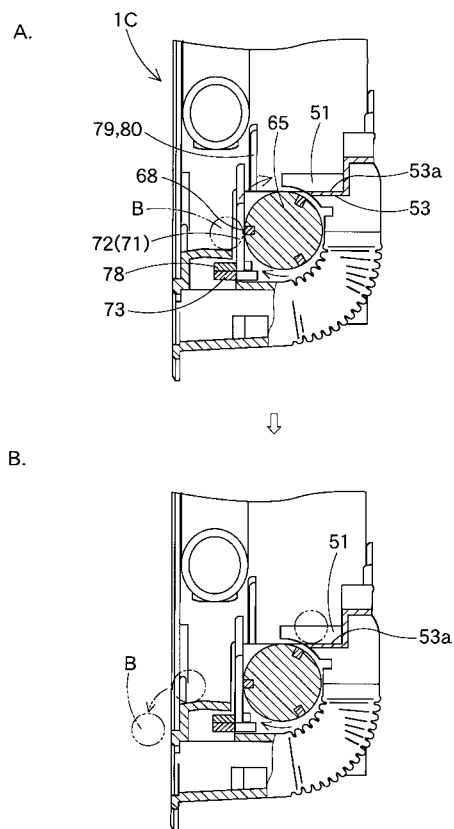
【図 15】



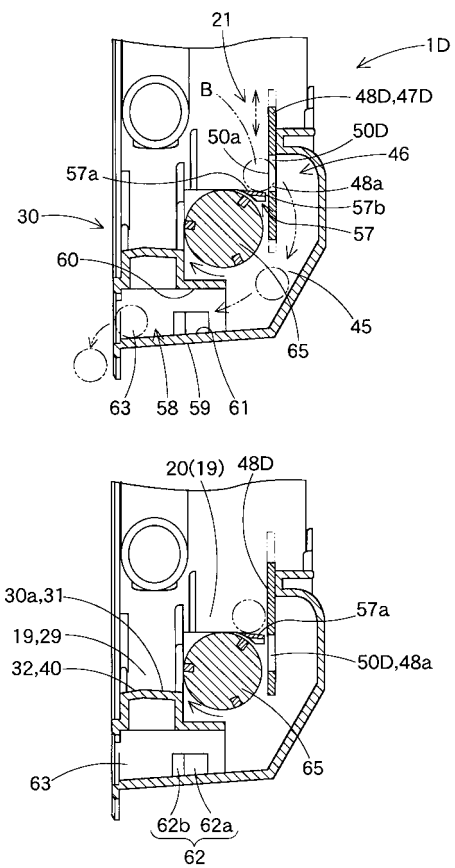
【図 16】



【図 17】



【図 18】



【図 19】

